

西東京市
教育計画策定のためのヒアリング調査
報告書

令和5年3月
西東京市教育委員会

目 次

I	調査目的	1
II	調査対象	1
III	調査結果	3
1	社会教育に関する施設・団体	3
2	教育に関する施設・団体	5
3	子育て・子育て支援に関する施設・団体	8
4	特別な支援を必要とする子どもたちに関する団体・事業所	16
5	その他	19

I 調査目的

西東京市教育委員会では、次期「西東京市教育計画（計画期間：令和6年度～令和10年度）」を策定するにあたって、アンケート調査では聞き取ることができない、西東京市における教育の現状と課題を把握するために、市内の教育関連施設・団体に対してヒアリング調査を実施しました。

II 調査対象

令和4年12月から令和5年3月にかけて、以下の施設・団体を対象に実施しました。なお、調査の実施にあたっては、事前にヒアリングシートの記入を依頼し、必要に応じて内容の聞き取りを行いました。

施設・団体名	対象	方法
1 社会教育に関する施設・団体		
(1) 公民館	利用者	ヒアリング当日に活動している団体に対して対面による聞き取りを実施。
(2) 学校施設開放運営協議会	会長 管理者	協議会の会長や管理者に対してヒアリングシートを配布し実施。
2 教育に関する施設・団体		
(1) 幼稚園	教員	私立幼稚園の教員に対して対面による聞き取りを実施。
(2) コミュニティ・スクール（学校運営協議会）・学校応援団	学校運営協議会委員等	学校運営協議会委員に対してヒアリングシートを配布し実施。
(3) 不登校支援に関する機関・団体	支援者等	不登校支援をしている方に対してヒアリングシートを配布し実施。
3 子育て・子育て支援に関する施設・団体		
(1) PTA・保護者の会	会長等	小学校及び中学校の会長等に対してヒアリングシートを配布し実施。
(2) 青少年育成会	会長等	会長等に対してヒアリングシートを配布し実施。
(3) 放課後カフェ	実施者	代表者に対してヒアリングシートを配布し実施。
(4) 児童館・児童センター	職員	館長に対してヒアリングシートを配布し実施。
	利用者	当日来館している子どもに対して対面による聞き取りを実施。
(5) 学童クラブ	職員	指導員に対してヒアリングシートを配布し実施。

施設・団体名	対象	方法
(6) 保育園	保育士	市立保育園の保育士に対してヒアリングシートを配布し実施。
(7) 図書館のおはなし会を実施している団体	実施者	代表者に対してヒアリングシートを配布し実施。
(8) 子ども食堂を運営している方	代表者	代表者に対してヒアリングシートを配布し実施。
4 特別な支援を必要とする子どもたちに関する団体・事業所		
(1) NPO 法人西東京市多文化共生センター（NIMIC）子ども日本語教室	職員	職員に対してヒアリングシートを配布し実施。
(2) 就労継続支援事業所・就労移行支援事業所	職員	職員に対して対面による聞き取りを実施。
(3) 障害がある子どもの保護者団体	会長等	会長等に対して対面による聞き取りを実施。
5 その他		
青少年世代の方 (概ね 16 歳から 20 歳までの方)	対象者	成人式実行委員会に対してヒアリングシートを配布し実施。児童センターの利用者（16 歳から 18 歳）に対して対面による聞き取りを実施。

Ⅲ 調査結果

1 社会教育に関する施設・団体

(1) 公民館

【活動内容、利用時間について感じる事】

- ・西東京市の公民館は他市からうらやましがられるくらいのものである。職員配置、機能などが充実している。
- ・使用したい団体が多く部屋がなかなか取れない。
- ・土日に事業を開催しているので、土日に保育室を使いたい。
- ・会員を増やしつつ、どういった活動ができるのかを考えるのが大きな課題である。
- ・公民館の無料利用は大変ありがたいと思っている。

【西東京市の社会教育環境について感じる事】

- ・現在は、規定通り、西東京市民が過半数以上で活動しているが、今の時代そういうことにこだわらなくてもいいのではないか。
- ・子育て中の方は、子どもがある程度大きくなると仕事に復帰される方が多いため、活動者が年々減少しているが、他の公民館で保育付きで利用されている方と交流したりして、情報交換ができればいいと思う。
- ・もともと趣味からきているところだが、公の施設を借りているので、自分たちの持っている技術とかは機会があれば地域へ伝えていきたいと思う。

【今後の教育委員会・学校との関わり方等】

- ・公民館の職員を可能な限り専門的な正規の職員にしてもらいたいと思う。正規の職員が地域に出て地域の状態を知り、それに基づいていろいろな企画を立てるといようなことをやっていけば社会教育が地域に広がっていくきっかけになると思う。
- ・駅の近くに公民館があることで利用しやすい。その一方で、学校施設も有効活用したい。

(2) 学校施設開放運営協議会（会長・管理者等）

【西東京市の子どもたちについて感じる事】

- ・コロナ禍で体を動かしていない子どもたちが多いと感じる。
- ・子どもたちが野球やサッカーで自由に使える公園や施設が少ない。
- ・悪い姿勢でスマホゲームをしているためか視力が弱い子どもが多い。
- ・おとなしい子が多い。活動できる機会が少ないように感じる。
- ・自主的な行動、想像力や工夫する力の低下は感じるものの、技術や身体スキルの上達の低年齢化を感じている。
- ・素直で子どもらしい子どもが多い。
- ・遊びや習い事を通じて社会性を上手に育んでいる。

【活動の中での課題】

- ・子どもの参加人数（加入メンバー）が少なくなっている。サッカーができる人数を集めることが課題。
- ・遊び場開放(自由遊び含む)のサポーターの確保が課題。
- ・成人指導者の育成と増強、コロナ禍での自粛ムードからの脱却。
- ・利用団体の高齢化や保護者の会の委員の選出が難しくなっていることなどもあり、運営協議会が安定したメンバーで活動できるかも課題の1つになっている。

【今後の教育委員会・学校との関わり方等】

- ・学校の備え付けの遊具の更新・撤去などによる工事時期など細かいことでも情報提供してもらえるとよい。
- ・子どもたちの様子で気掛かりなことや学校と遊び場事業でのルールの共有など、子どもに関しても密に情報共有したい。
- ・学校で遊べる安心感は子どもも保護者もあり、先生の姿を見かけるだけでも子供たちはとても喜んでいるので、可能な範囲で先生方にも放課後の子どもの姿を覗いていただけるとよい。
- ・担任の先生の手を煩わせないために、募集案内などをする際に学校施設開放運営協議会用の電子メール等があればよいと思う。

2 教育に関する施設・団体

(1) 幼稚園

【西東京市の子どもたちについて感じること】

- ・経済的な格差の広がりを感じる。また、外国出身の家庭の増加や放任と過保護などの家庭の価値観の多様化が進んでいる。
- ・発達の課題や家庭的な問題から配慮が必要な子どもが増えた。園を休みがちな子どもも増えてきている。

【現在事業を運営している中での課題】

- ・初めて幼稚園に子どもを預ける際、子どもも親もいかに早く園に馴染んでもらうかが課題になっている。また、同じ世代の子どもを持つ親同士の交流があればと思う。
- ・預かり保育に関する要望が強い。家庭で悪戦苦闘しながら自分の子どもを育てることの楽しさも伝えていきたい。
- ・学校との関係は「指導要録」と「就学支援シート」といった幼児の記録に関して類似の書類を作成する仕事が負担である。小学校が活用して、役に立っているということが見えるようにしてもらえるとありがたい。

【西東京市の子どもたちを取り巻く教育環境について感じること】

- ・幼稚園であれば、一人ひとりに応じた対応や指導ができるが、小学校など集団生活の中では十分な力を発揮できるまで育ちきらないこともある。そういった子どもが伸びるために療育や特別支援教育の理解が進めばいいと感じることもある。
- ・親がその子の将来のために最適な教育環境を選んでいくことができるのかは依然として課題がある。
- ・園で年長さんとしてしっかりしていた子が、小学校へ上がると一番年下の1年生となって幼く戻ってしまうことがある。

【西東京市の教育について特に重点をおくべきこと】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大が進むことで、保護者同士の交流が減っているように思う。自分の子育てが過干渉なのか放任すぎるのかそういったことをお互い比較して考える場があれば子育てに悩み疲れず、子育てをより楽しめるのではないかなと思う。
- ・外国籍の子どもが増えてきている現状を考えつつ、日本に馴染んでいない（日本語が話せない）保護者の「駆け込み寺」のような相談場所があるとよい。もしかしたらそういった相談場所もあるかもしれないが、あまり認知されていないように思う。
- ・学校の先生との交流がコロナ禍によって減っているのが、段階的に戻していければよい。園によっては、小学校の先生が園の教育を1日体験することもしていた。また、園からも小学校見学をしていた。園と学校の教員同士の交流を増やすことで、お互いのことを理解でき、ひいては子どものためになるのではないかな。
- ・中学生の職場体験や小学生のまち探検の中で園を感じていただく機会があればいいと思う。

(2) 学校運営協議会（会長・地域学校協働活動推進員）

【西東京市の子どもたちについて感じること】

- ・ 普段の挨拶、見守り活動などでも、素直な子どもたちが多く感じる。
- ・ 家庭での対応が難しい子どもについて何が出来るか考えることがある（学習・進路・心・居場所など）。
- ・ コロナ禍において、確実に子どもたちの実体験が不足している。
- ・ 安心して遊べる子どもの居場所が少ない。
- ・ 子どもたちは色々なことにチャレンジしてみたい気持ちを持っている。学校運営協議会としても子どもの教育ニーズにこたえる機会を用意できるように考えたい。

【活動の中での課題】

- ・ 今後、現役世代（現在学校に通っている児童・生徒の保護者）の地域における活動を期待する。
- ・ 高校生、大学生へのアプローチ、高齢者への働きかけ、勉強を教えるボランティア集め。
- ・ 課外活動、土日の練習等、教員の負担。
- ・ 保護者が忙しいため、会議の場に呼びづらい。
- ・ 委員の子が卒業すると新規の保護者を誘うことが難しい。

【今後の教育委員会・学校との関わり方等】

- ・ 現場の先生のニーズを知るために、管理職だけではなくて現場の先生と懇談の場を持ちたい。
- ・ 地域の人で学習支援ができる人が1人2人いるといいのではないかと感じる。
- ・ 学校が、もっと地域に助けを求めても良いと感じる。また、そのためにも、学習会や各学校の取組に学ぶ交流会等を企画してほしい。
- ・ 教育委員会、学校とも良い関係が築かれているので、このまま維持していきたい。
- ・ 行政や教育委員会は新たな地域人材が活動につながったり、コーディネーターの支援をしていくことが求められていると考える。
- ・ 心理職でなくても相談相手を求める母親たちのニーズがある。例えば元PTAを務めた経験のある女性がメンターになって若い世代の母親たちの悩みや苦労話に寄り添っていただくなどである。教員にかかる負担を軽くするため、市として母親のメンター作りを進めていただくとうよいと思う。
- ・ もっと日頃から先生方と節度を持ちつつ、親しくなれたら良いと思う。
- ・ 先生方は忙しく授業のことが第1なのは分かるが、もう少し、地域の活動やその中での子どもの活動などに目を向ける余裕が欲しいと思う（先生方に余裕ができるよう地域で支えることができればとも思う）。

(3) 不登校支援に関する機関・団体

【西東京市の子どもたちについて感じること】

- ・若者たちは、安心でき、認められ、誰かのために役立つことのできる場を特に求めている。
- ・一人ひとりと正面から向き合うことが必要。また、親自身も悩み、孤立しており、保護者支援にも力を注いでいくことが不可欠。

【活動の中での課題】

- ・行政や関係機関とも連携体制を取ることができている一方で、この活動を持続的に行うためには、安定した活動資金が必要。
- ・進路や就労、家庭環境や健康面で様々な課題や悩みを抱えている若者も多く、団体内では解決できないことへの対応が必要。

【今後の教育委員会・学校との関わり方等】

- ・毎月各学校にもチラシを配布しているが、現時点では口コミや SNS、親の会などを通してつながるケースのみである。
- ・行政や教育委員会と民間団体が連携・協働して子どもたちの居場所づくりが安定して行える体制について議論していく必要がある。

3 子育て・子育て支援に関する施設・団体

(1) PTA・保護者の会(会長等)

【西東京市の子どもたちについて感じる事】

- ・高学年の児童が積極的に低学年の児童のサポートをしている。
- ・子どもたちが自由に出来る場所が少ないことやルールの締めつけが多い。
- ・いじめ対策やあいさつなどの指導が行き届いている。
- ・約35人を1人の担任が担当することに不安を感じる児童・生徒もいる。
- ・他の自治体との比較ができないため何とも言えないが、市内に限らず今どきの傾向として、「子どもの自主性を重んじる」ことや「叱らない教育」と「放任」を履き違えている保護者が多いと思う。

【現在事業を運営している中での課題】

- ・共働き家庭が増え、活動に参加できる保護者に限りがあり、人員不足を感じる。
- ・現在は学校側と良好な関係を築かせていただいている。
- ・コミュニティ・スクール化に向けて関係各所とのかかわり方も変化させる必要がある。
- ・見守り等あるが、横断歩道で停車しない車をよく見たり、不審者情報をよく聞くことから、登下校中に交通事故にあったり、不審者に遭遇したりしないか不安がある。
- ・保護者の認識不足などから子どもに支援の機会を与えられていない場合がある。一方で、先生方の御尽力があっても学校で支援の人手が足りているとは言えないと思う。

【西東京市の教育について特に重点をおくべき事】

- ・子どもたちが安心して遊んだり、学んだりする環境の整備。
- ・算数などで行われている少人数クラスでの指導をもっと検討してほしい。
- ・不登校児童・生徒への対応をもっと幅広く進めてほしい。
- ・もっと地域との関わりの場を作って子どもたちに参加してもらえるとよい。そのような場で大人たちとのコミュニケーションが取れるようになれば、大人も一層関係性を深められるのではないかと思う。
- ・学校にタブレット保管場所を設置して欲しい（特に低学年、重くて登下校の負担になり、転んでしまう児童もいる）。
- ・支援が必要な児童・生徒への対策やサポート、児童・生徒一人ひとりの個性、特徴に合わせた教育を期待している。

(2) 青少年育成会

【西東京市の子どもたちについて感じる事】

- ・子どもたちが困っていることは共通でボール遊びができる公園などが少ないことや中高生の居場所が少ないこと。
- ・親や先生でもない、いつでも相談や SOS が出せるしがらみのない大人が傍にいとよい。
- ・コロナ禍でのイベントの中止や縮小が続き、子どもたちと接点が減っているため、現状を把握することが難しくなっている。

【現在事業を運営している中での課題】

- ・育成会スタッフの人材が不足しているため、1人にかかる負担が大きくなる。また、近年は先生方の異動が多く、顔なじみになりにくい。

【西東京市の教育について特に重点をおくべき事】

- ・子どもたちには「生きる力」と同時に「つよいこころ」も育ててほしい。
- ・コミュニティ・スクール制度を活用し教職員の負担を減らし児童・生徒に対し指導できる環境を作ることが望ましい。

(3) 放課後カフェ

【西東京市の子どもたちについて感じる事】

- ・自分で考えて行動を選択することが少なく、友達との LINE のやりとりにも時間をとられ、日常的に時間に余裕がないのではないか。

【現在事業を運営している中での課題】

- ・コロナ禍以降、外部の人間が学校に入ることが困難になっている。工夫しながら関わっていきたい。

【西東京市の子どもたちを取り巻く教育環境について感じる事】

- ・塾へ行ける子と行けない子の格差がある。特別支援教室や通級などの指導を受けている生徒への偏見がまだあるように思う。
- ・通常の学級の中で個別に配慮するなど、誰もが一緒に学べる環境を整えることが、共生社会で生きていくための経験として必要ではないか。
- ・不登校の生徒を減らすためにも生徒や先生がお互いを尊重できる環境が必要。

【西東京市の教育について特に重点をおくべき事】

- ・地域との連携、学校現場の負担軽減のためにもボランティアの受け入れを検討してほしい。中学校内における放課後の居場所づくりを学校に啓発してほしい。

(4) - 1 児童館・児童センター職員

【西東京市の子どもたちについて感じること】

- ・ 集団で遊ぶ機会が減り、遊びを通じて社会性を獲得できる機会が不足している。
- ・ 一人でやってくる子は、職員との関わりを求める子が多い。
- ・ 認める心、許す心、共感する心等が不足している。
- ・ あいさつや言葉づかいができ、ルールやマナーを守れる子どもが多い。
- ・ 待つこと（集中できる時間が短い）が難しくなっていると感じる。
- ・ コロナによる外遊びや運動遊びの制限が影響しているように感じている。
- ・ エリア的な要因かもしれないが、素直な子が多いイメージ。
- ・ 失敗を恐れる子が多くなったように思う。
- ・ 安らげる場所の必要性を感じる（児童館などがそうありがたいが・・・）。
- ・ 子どもたちは、自分たちで決めたほうがいいことも、大人のジャッジに頼ることがある。

【現在事業を運営している中での課題】

- ・ 関係機関に対しては情報交換の機会などを通じて、児童館として積極的に連携していくようにしている。
- ・ 児童館が行事を企画する上で、学校の授業時数や行事を考慮する必要がある。
- ・ 学童クラブ在籍児童数が多く、高学年や中高生が利用しにくい施設になっている。
- ・ 低学年でも下校が遅く、児童館の行事を計画する際の時間設定がとても難しい。
- ・ 家庭との関わりは年々難しくなっている。

【西東京市の子どもたちを取り巻く教育環境について感じること】

- ・ 行事の数など、学校によって経験していることが違うように感じる。
- ・ 子どもたちが居心地良い居場所があるとよい。特に学校内に居場所があるとよい。
- ・ タブレットなどの活用が他市より進んでいるように感じる。
- ・ 学習スペースがあるとよい。
- ・ 放課後、友人と関わる時間が希薄な印象がある。
- ・ 学習意欲低下を防ぐためにも低学年からの学習フォローアップの必要性を感じる。
- ・ 運動能力低下についての懸念はよく話題になっている。

【西東京市の教育について特に重点をおくべきこと】

- ・ 明らかに計算理解、文字の読み書きに遅れを感じる子がいるため、対応が必要。
- ・ 西東京市として「地域や関連団体みんなで子どもたちをみる」体制づくりをお願いしたい。

(4) - 2 児童館・児童センターを利用されている中学生

【利用している中での要望・意見】

- ・児童センターの先生はみんないい人。学校の先生と違う立場から自分の話を聞いて親身になってくれる。

【西東京市の教育について重要だと思うこと（どんな学校になればいいと思うか）】

- ・中学生になると学習内容が難しくなる。特に理科が難しい。テスト前などに授業で分かりやすく教えてほしい。
- ・先生の間接力を高めてほしい。教科書を見るだけ、楽しいだけの授業や雑談が多すぎたりすることもある（テスト前はまじめに取り組みたい）。
- ・気軽に悩みなどを話せる場所が欲しい。
- ・外部講師から教わることについては、新鮮な気持ちになれるのでありがたい。
- ・高校への見学は中学3年生からだが、2年生のうちから見学したり、高校教師から話を聞くことが出来ればもっと世界が広がると思う。
- ・コンクリート造りの学校の老朽化が気になる。バスケットゴールが古い。更衣室やトイレが汚い。

(5) 学童クラブ職員

【西東京市の子どもたちについて感じる事】

- ・アレルギーを持つ子が増えていると感じる。
- ・習い事が多く、余裕がなく忙しそうである。
- ・登下校の児童にとって危ない狭い道路があるように思う。
- ・遊びを知らず、経験していないことも多い。
- ・子どもたちの希望に沿った公園などが少ない。

【現在事業を運営している中での課題】

- ・家庭との関わりは薄くなってしまっている。
- ・学校の先生が忙しそうでコミュニケーションを取る時間が少ない。
- ・家庭とも保護者会や行事を通して関わる機会が戻ってきている。
- ・保護者が子どもの育ちについて他人任せにしているように感じることもある。
- ・関係機関（学校など）と互いに職員が交流したり、施設見学等で繋がりをもちたい。

【西東京市の子どもたちを取り巻く教育環境について感じる事】

- ・放課後子ども教室があることは良いと思う。
- ・子どもも保護者も負担が増しているように感じる。

【西東京市の教育について特に重点をおくべきこと】

- ・学校内に学童を設置するなど受け入れ学童数を増やしてほしい。
- ・校庭開放を積極的に実施していただきたい。
- ・子どもたちが将来の夢や希望が持てるような教育を充実してほしい。
- ・学校内の施設をより上手く活用させてほしい。
- ・宿題等学習についていけない児童の対応について検討してほしい。

(6) 保育園職員

【西東京市の子どもたちについて感じる事】

- ・保護者はとても園児を大事に育てている様子が伺える。
- ・父親の育児参加が増えてきていると感じている。
- ・親子の関係性が薄いと感じることが多くなった。
- ・園児は元気で穏やかに保育園生活を過ごしている。
- ・公設公営保育園の公的機関としての役割の大きさを感じる。
- ・親自身の時間を子どもの育ちよりも優先していることがあるように思う。そのような影響から子どもの生活リズムがつきにくい気がする。

【現在事業を運営している中での課題】

- ・コロナ禍の影響で従来できていた交流や行事などを通じたコミュニケーションが難しい。
- ・日常の関わりを通じて、顔の見える関係をつくる、深めることが必要。
- ・運営にあたっての課題、関係機関や学校との関わり、家庭の関わりなど。
- ・新型コロナウイルス感染症対策で異年齢交流ができていない。
- ・子育てとはどういうものなのか保護者との感覚のずれを感じる。
- ・新しいコミュニケーションの方法を考えて作っていきたい。
- ・少しずつ小学校との連携もできはじめているがまだまだこれからであり、子どものためにさらに連携をとっていく必要がある。

【西東京市の子どもたちを取り巻く教育環境について感じる事】

- ・地域の市立小・中学校へ就学していく児童・生徒が多いので、連携が不可欠である。
- ・少人数でのクラス編成ができていて、一人ひとりに目が届いていると感じている。
- ・小学校もいつでも園と情報交換できる関係やシステム等が構築できていくといいと思う。

【西東京市の教育について特に重点をおくべき事】

- ・現在行っている小学校との連携をさらに充実させていくことから始めていくことが重要。
- ・保育要録や就学支援シートを直接小学校に届けることにより、園児の様子を直接伝えることができるようになったことはとても良いと思う。
- ・まち探検で小学2年生が保育園に来てくれる事は小学生にとっても、園児にとってもよい機会になっているので、今後も続けてほしい。
- ・基幹型ブロックごとの保育園、小学校の先生同士で情報共有できる座談会のような会があると、園の様子、小学校の様子が聞けてよいのではと思う。

(7) 図書館のおはなし会を実施している団体

【西東京市の子どもたちについて感じる事】

- ・保護者が多忙なこと。また、ゲーム世代が保護者になっていることから YouTube やゲームなどの電子メディアに時間を取られている。家庭で少しでも親子で本を体験する機会を増やすような働きかけがあればと思う。今でも子どもたちにはおはなしに集中する力は十分にある。
- ・地域の文庫や学童向けのおはなし会に参加しているが、素直で、好奇心旺盛で将来楽しみな子どもたちが多く感じる。
- ・子どもに時間的余裕がない。帰宅時間が遅い。

【現在事業を運営している中での課題】

- ・会の運営は 40 年を越え、地域で子どもたちにおはなし（昔話、創作物語）を覚えて目を見ながら語る事への理解は少しずつ得られている。コロナ禍のため、学校での読み聞かせの機会が減少していることもあり、語りによって物語を耳から聴く機会をもう少し増やしたい。
- ・おはなし会に限らず図書館で行っている事の学校や家庭への周知。
- ・メンバーの高齢化、後継者不足、コロナによる発表の機会の減少。

【西東京市の教育について特に重点をおくべき事】

- ・子どもによるおはなし会の企画など子どもの読書活動の更なる充実が求められている。

(8) 子ども食堂

【西東京市の子どもたちについて感じる事】

- ・ボランティア精神を持っている子どもが多いのではないかと感じる。
- ・経済格差、教育格差の連鎖がより一層大きくなっているように感じる。
- ・食事が十分に用意できない事情のある家庭がある。
- ・見守ってくれる大人の存在を必要としている子どもたちがいる。
- ・中学生の子どもたちだけでお弁当をもらいに来られる方もいる。
- ・家庭環境や背景に目を向け、負の連鎖を断ち切るサポートが必要だと感じる。
- ・他の子どもや関わる大人と一緒に食事をするのをとても楽しみにしている子どもいる。
- ・母親が仕事をしていて、忙しく、コンビニ弁当を買ってきて食べている子どもがいた。

【西東京市の子どもに対する教育で必要と思われる事など】

- ・コロナ禍で募る負担や不安、負の連鎖を子どもたちに出来るだけ与えないことが必要。
- ・低所得者世帯に対する学習支援のための援助費、進学に伴う費用の補助など、必要になってくる。
- ・経済状況の格差が教育環境の格差に繋がらないよう手当が必要。
- ・コロナ禍、様々なりスクがあることは理解しているが、やり方や規模を考慮しつつ、子どもたちの楽しみを増やしてあげて欲しい。
- ・子どもたちがのびのび遊び体験することのできる自然環境を作り守る、地域とともにある学校をつくるコミュニティ・スクール構想を実現するには、子どもからの意見を集約し、子ども主体に進めてほしい。

【その他】

- ・長期的なサポートを必要としている家庭などの多くは情報弱者であるケースが多く、情報や支援が十分に行き渡っていないように思う。
- ・支援を必要としている子どもたちや家庭が孤立してしまうことのないよう、積極的な情報発信、一歩踏み込んだ支援の必要性を感じる。
- ・行政だから出来ること、民間だから出来ること、それぞれが力を合わせることで、より多くの子どもたちのために、より良い西東京市にしていけるようにしていきたい。
- ・情熱のある先生方が子どもたちとどう触れ合っていきたいのか、どんな環境や仕組みが必要なのか議論が必要ではないか。

4 特別な支援を必要とする子どもたちに関する団体・事業所

(1) NPO 法人西東京市多文化共生センター（NIMIC）子ども日本語教室

【西東京市の子どもたちについて感じること】

- ・外国につながる子どもたちも、学習環境や体験については家庭の経済状況に左右される。長期休みに無料で自由に参加できる学習会や体験会などが必要ではないか。
- ・アレルギーや宗教上の理由で給食が食べられない子どもたちが少しずつ増えている。

【現在事業を運営している中での課題】

- ・児童・生徒数が増加しているため、小学部では入室待ちの児童がいる。中学部では入室を希望する生徒は受け入れているが、マンツーマンでの対応が難しくなっている。
- ・安定的に事業を継続していくにはボランティアの発掘、育成と負担軽減の必要性を痛感している。

【多様な文化的背景を持つ人々が西東京市で生活していく上での課題】

- ・日本は同質性の高い社会なので、「違う」ことが差別につながりやすく、いじめなどの原因になりうる。また、日本語ができないと子どもたちは学習活動が出来ず、大人は社会に参画できない。学びたい人が日本語や日本事情を学べる体制が整備されておらず、ボランティア頼りなので不十分である。
- ・多様な背景を持つ人たちがお互いを認め合い、関わり合いながら住みやすい地域づくりをしていくこと。

【今後の教育委員会・学校との関わり方等】

- ・子ども日本語教室のスタッフと市との連絡会で直接担任の先生と子どもの学校での様子を情報共有したいと要望していた。その結果、今年初めて学校訪問という形で、スタッフが担任の先生と面談し、お互いの情報共有ができた。参加したスタッフからは継続を希望する声が大きく、効果を強く実感している。
- ・教育委員会には初期適応指導後の受け皿を整備してほしい。その際には、NIMIC は知見を持つボランティア団体として大いに協力したい。

(2) 就労継続支援事業所・就労移行支援事業所

【障害のある方が共生社会の中で幸福に生きるために西東京市の教育が果たすべき役割】

- ・学校からの情報は本人の弱点を隠しがちで、就労支援所、企業などは入ってから本人の弱点を知ることが多い。親にも理解してもらい、必要な情報提供をして本人が後々困らないようにしていかなければならないと思う。

【障害のある方が小学生や中学生時代に学んで欲しいこと】

- ・教育でも本人の主体性をどう引き出すかというところに着目して計画を練ってほしい。
- ・学校で「休みなく来ている」「作業は早くはないが確実」「まわりともめることなく過ごすことができる」などの実績をつけてほしい。
- ・障害者本人の能力の習得過程を周囲も押さえておくことが大事である。
- ・傷ついても立ち直れるような経験を学校教育等で身につけるために、成功体験をストックしておいて、支援者はそれをうまいタイミングで伝えていくとよい。
- ・本人が一人でできる力、本人ができない時に支援を求められることができる力をつけるよう支援していくことが重要である。
- ・障害者のために集まるのではなく、例えば農業をやるために障害者も高齢者も健常者も集まり、そこに小学生や中学生も呼ばれるような取組を是非やって欲しい。

【障害のある方の社会人になってからの学び直しについて】

- ・雇用された後は横のつながりがなくなるので、集まってコミュニケーションをとる機会から始めるのはよいと思う。生涯学習などを考える場合でも自立をテーマに生活力が上がる学習がよいのではないか。
- ・企業でしか体験できないこともあるので就労は障害者にとって大事な要素である。今後は、一人ひとりの障害者本人のニーズに合わせたやりがいや社会参加を企業がより提供していけるような社会になるとよい。

【その他】

- ・5年前と比べて新しく入ってくる人の重度化は進んでいる。特別支援学校の就職率が上がれば上がるほど、作業性の高い人は就職するので当施設を使う利用率が減り、重度の人が増える結果になっている。また、高齢化も進んでいる。生活介護レベルの人が増えてくると思うので、5年後はさらにそれが進んでいると思う。
- ・不自由が改善されるだけでなく、本人のやりたいことや、健常者が当たり前に行っていることができる社会になればいいと思う。
- ・教育の中に障害者理解でできることがあれば何でもやりたいので自分たちを活用してほしい。

(3) 障害のある児童・生徒の保護者の団体

【全ての人が共生社会で幸福に生きるために西東京市教育委員会が特に力を入れる必要があると思われること】

- ・プログラミングなど専門性のある教員以外の方の学習があってもよい。
- ・固定制特別支援学級の担任でなくても特別支援教育について全教員が理解できるようにしてほしい。
- ・全教員が特別支援教育について理解する必要があるが、固定制特別支援学級での経験のために短い期間で担任が変わるような「通過点」の人事異動でなく、一定の期間担任をしていただけるような人事が良いと思う。
- ・通常の学級と固定制特別支援学級の間にワンクッションおける仕組みがあればいいと思う。
- ・勉強以外でも障害のある人が（芸術、スポーツ、あいさつなどの礼儀などどんな領域であってもよいのでその人が活躍できる領域で）輝いている事例をもっと広く周知してほしい。
- ・通常の学級の教員が特別支援学級の子どもたちとも、もっと関わってほしい。何人かとチームになって子どもを教えたり、育てていくとよいと思う。
- ・通常の学級の先生が特別支援学級の子どもたちに教える姿を見せることで、通常の学級の子どもたちも体験として共生社会を感じるきっかけになるのではないか。
- ・教員個人のこれまでの経験則のみによった支援や指導だけでなく、もっと医師や保護者、カウンセラー、管理職がチームとなって子どもの支援や指導内容を考えてほしい。
- ・教育支援コーディネーターが名ばかりにならないようにしてほしい。保護者との相談機能を持つことや担任や多くの先生につなぐことは子どもの支援や指導にとっても大事だと思う。
- ・共生社会実現のため、全ての児童・生徒が多様性や共生社会について理解を深めることのできる授業（体験を伴うものやヘルプカードの説明など）を増やしてほしい。
- ・インクルーシブ教育の推進や副籍交流、通常の学級内での(補助)教員による学習指導などをより充実させてほしい。

【その他】

- ・固定制特別支援学級のパンフレットもホームページに載っていないため、自分の子どもが通う学校が大まかにどの辺りにあるかを探すのに手間がかかる。そういった細かな配慮が欲しい。
- ・タブレットが重い。児童・生徒のタブレットの持ち帰りについて考えてほしい。
- ・就学相談を丁寧にしていただき、ありがたかった。

5 その他

(1) 青少年の方（主に 16 歳から 20 歳までの方）

【西東京市の学校教育について感じる事】

- ・PTA やおやじの会など様々な人が携わって行事や進路学習があったのが印象に残っている。
- ・図書館の蔵書が少ないと感じた。
- ・小学校では飼育動物がいたが、中学校ではいなくなる。生き物に触れる機会がもっとあれば良いと思う。
- ・ICT など情報系の授業に偏りすぎている気がする。農業や生物について学べる機会もほしい。
- ・障害者への理解が少ない（そもそも関わる機会が少ない）。障害を考える授業は小学校や中学校でも、早いうちからもっとやった方がよいと思う。
- ・自分の個性も他人の個性も大切に社会にしていく必要がある。そのために、一人ひとりの個性を大切に、いろいろな人が社会で生きていて共生する必要がある、ということをおさいうちから学校で学ぶ必要があると思う。
- ・学年を超えたつながりを持つことが大切。
- ・部活動で外部講師に教わることはありがたい。合同練習などの機会も増やしてほしい。
- ・グローバル化が進む中で、自分の意見をしっかりと伝えることが大切だと思う。

【西東京市の社会教育について感じる事】

- ・NPO やボランティアグループが多くあり、子ども食堂や防災活動を行っているイメージがある。また、児童館など子どもの遊び場も多いが、ボール遊びのできる公園がほとんどない気がする。公民館などでも色々な団体が活動しているように感じる。

【社会人になっても学び続けることについて感じる事】

- ・大学にも聴講制度を使って学びにきている社会人の方が多いので、需要があるのだと思う。
- ・学び続けることは社会人になっても成長することができる良い機会だと感じる。

【今後の教育委員会・学校との関わり方等】

- ・学校と生徒の距離が縮まり相談しやすい場になれば良いと思う。

西東京市教育計画策定のためのヒアリング調査報告書

発行日 令和5年3月

発行 西東京市教育委員会 教育部教育企画課
西東京市南町五丁目6番13号（田無第二庁舎3階）

電話 042-420-2822（直通）